

第9回 JIMTEF災害医療研修ベーシックコース

開催日時：平成29年9月9日（土）13:00～18:10, 9月10日（日）9:00～13:00

会場：JICA東京

主催：公益社団法人 国際医療技術財団（JIMTEF）

プログラム

9/9（土）講義1「災害医療概論」

講義2「東日本大震災・東京電力福島第一原発事故に対する医療対応」

講義3「発災から急性期の対応」

講義4「避難所運営ゲームHUG」

9/10（日）講義5「災害時におけるメンタルヘルスケア」

講義6「災害と生活機能低下」

講義7「亜急性期以降の対応」

講義8「災害医療の実際～熊本地震～」

参加者：116名

内 訳）・日本理学療法士協会23名・全日本鍼灸マッサージ師会22名 ・日本作業療法士
会13名 ・日本言語聴覚士協会9名 ・日本臨床心理士会9名 ・日本柔道整復
師会7名 ・日本臨床衛生検査技師会4名 ・日本栄養士会3名 ・日本歯科技工
士会2名 ・日本視能訓練士協会2名 ・その他3名（看護師, 助産師, 救急救士）

都道府県:全国31都道府県より参加

感想：

- ・DMAT, JRAT, 栄養士会災害支援チーム（JDA-DAT）, 鍼灸マッサージ師会など各団体が実際に熊本地震で行った支援の講和があり、他団体の役割を知ることができた。
- ・支援を行うために必要な知識として、災害や紛争における人道危機支援に関する最低基準の「スフィア・プロジェクト」、心理的応急処置の「サイコロジカル・ファーストエイド（PFA）」などの国際的基準があることを知った。
- ・避難所運営ゲームHUGでは多職種で構成したグループで行い、次々に来る避難者や支援物資の受け入れ、電話や仮設トイレなどの受け入れなど、大混乱した避難所の状態を経験することができた。

課題：

- ・発災後の早期に生活支援が行える体制作りを本会は目指している。このためには災害支援に特化した知識を持ち災害支援スタッフとして活動できる会員を養成していくことが必要と改めて感じた。
- ・多職種がお互いの役割を知り、連携した支援体制を構築していくことの必要性を再認識した。多職種も参加が可能な災害対策研修会及び災害対策キャラバンを継続して、会員内外にさらに多くの参加を促していくことが必要と感じた。

平成29年9月11日

文責：（公社）神奈川県理学療法士会 災害対策委員会 西澤 茂子